

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	生きがいデイサービス事業	会計	一般会計	事業No.	197	施策順No.	35-008
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-4-14-5		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	12	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	介護保険には該当しないが、一人暮らし又は日中独居等で家に閉じこもりがちな高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	生きがいの場を提供することにより、要介護状態への進行の原因となる閉じこもりの防止を図る。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		閉じこもり防止が図られた率 利用者数/一人暮らし高齢者数*100%	5.8	7.2	7.7	8	8.6	7	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	この事業を実施することで、高齢者の生活改善や介護予防につなげることができている。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	一人暮らし・高齢者世帯等で家に閉じこもりがちなために要介護状態になるおそれのある高齢者に、日常動作訓練や趣味活動(園芸、手芸、合唱等)、レクリエーションなどを提供して、要介護状態への進行を防止する。昼食付。利用者は利用料400円と食費の実費を負担する。(他に実費等の負担がある場合もあり。) 実施施設 デイサービス:上郷、いいだ、北部、竜東、かわじ、かなえ、西部、中部、メイプル、上村、南信濃、NPO花の木、わくわく、くれよん 宅老所:ひだまり、おいなんよ、おおせぎ、さろんあやめ、ふれあい街道ニイハオ 老人福祉センター:山本、上郷、南信濃		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	生きがいデイサービス事業 利用者に課題や目標を持って貰うことで、要介護状態への移行防止を図る。 上村ふれあいセンター実施分について、送迎を委託。	利用者数 延べ利用回数	200名 2,552回
23年度実施計画	生きがいデイサービス事業 利用者に課題や目標を持って貰い、要介護状態への移行防止を図る。 上村ふれあいセンター実施分について、送迎を委託。	利用者数 延べ利用回数	200名 3,670回

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(そ)ふるさと納税
	特定財源	国庫支出金					
		県支出金					
		起債					
		その他		50			
		一般財源	16,403	11,678	16,403		
		計(A)	16,403	11,728	16,403		
		正規職員所要時間					
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)		0			
		トータルコスト A+B		11,728			

4 事業に対する市民や議会の意見

積極的に取り組んでほしいという要望が、市議会議員・NPO等から上がっている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムツス指標	
			安心していきいき暮らせる いきいき暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り		日中独居で閉じこもりがちの高齢者に対して、他の人との交流を図るきっかけづくりができた。
	後期に向けた課題		地域包括支援センターにおいて、独居、高齢世帯の実態把握調査を行っているので、チェックリストで該当しなかった高齢者に対して支援をしていく。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り		事業者に対して、この事業の目的を説明し協力を依頼するとともに、地域包括支援センターの実態把握調査などで該当する高齢者の掘り起しを行った。
	後期に向けた課題		実施できる事業者及び施設の拡大と利用高齢者の掘り起し。
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り		生きがいデイサービス利用者は、日常動作訓練等で身体能力を維持するとともに、食事(弁当等)の提供により配食サービスを受けることができる。
	後期に向けた課題		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り		地域との繋がりが希薄になり、孤立化する高齢者がこの事業に参加し、目的や目標を持って交流し活動してもらうことは、地域社会の維持継続の一環としても重要なことと考える。
	後期に向けた課題		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り		①デイサービス、宅老所、老人福祉センター等の施設が生きがいデイ事業を実施する場となる。 ②行政はこの事業が各地域において継続して実施されるよう利用者拡大に努める等の支援を行う。
	後期に向けた課題		
全体を通じて	4年間の振り返り		各地域の包括支援センターとの連携を図りながら、独居、高齢世帯、日中独居の方の掘り起し、生きがいデイ事業の啓発ができた。
	後期に向けた課題		生きがいデイ利用者の実態を把握し、介護保険の申請に移行しないようにさらに努力していく。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------